

THE KOBEC CO

JANUALY No.333

1989 / 月刊神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可
1989年1月1日印刷 通巻333号 1989年1月1日発行
毎月1回1日発行





CLATHAS®

CLASSICAL MODERN

'89 HAPPY NEW ELEGANCE

肩ひじはらずに、
エレガントな'89年。

女性が、ナチュラルに、エレガントに、
開花する、1989年。

肩ひじはらずに、自然体で生きることが、
素敵で女性の条件になりそうな気配。
新しい女性の生き方をクリエイトする
ベニヤにご期待ください。



BENIYA

KOBE OSAKA TOKYO

神戸 本店	三宮センター街	Tel.078(332)2135-6
エルベ店	センタープラザ1F	Tel.078(332)2829
レノマ店	三宮センター街	Tel.078(332)0780・0788
シャコック店	三宮本通り	Tel.078(332)4858
さんちか店	さんちかローザアベニュー	Tel.078(321)2678
イズ	そごう神戸店本館3F	Tel.078(261)2922
サシローラン店		
大阪 三番街店	阪急三番街	Tel.06(374)0137
ナビオ店	NAVIO阪急3F	Tel.06(316)1303-4
ミナミ店	虹の街	Tel.06(213)6128
近鉄店	上本町近鉄百貨店3F	Tel.06(773)1117
東京 銀座店	ニューメルサ1F	Tel.03(574)8012
銀座エルベ店	銀座メルサ1F	Tel.03(564)5625
自由ヶ丘店	ニューメルサ自由ヶ丘	Tel.03(724)8888
日比谷店	日比谷シャンテ1F	Tel.03(501)1871

三澤多加子

ISMを着る

’84神戸女学院大学音楽学部器楽科フルート専攻卒。
在学中、米国ケーブコッドにてエレノアローレン
スフルートマスターコース修了。’85アマダハーブ
アンサンブルと共に北京・上海にて演奏。現在エ
レガンスアンサンブルに所属。’89、3/4風月堂ホー
ルにて演奏会予定。

KITANO-ISM-KAN



ISM PRESENTATION

〒650 神戸市中央区山本通2-66

TEL (078) 222-2818



〒(078) 222-3641



BAIOU/アンサンブル ¥66,000

撮影協力/UCCコービー博物館

※イズムのブラウスを抽選で3名様にプレゼントいたします。葉書に住所・氏名・年齢・職業を記名の上、神戸っ子「イズム」係。’89年1月25日まで。

女性よ、胸に星座を抱け。

時代は、女性に道を拓いたばかり。

才能も、魅力も、これからの実力を問われるのではないかしら。

本物だけが、輝ける。

自分の宇宙に希望の星座を描ける女性が、

ダイヤモンドみたいに、輝ける。



プローチ・ダイヤモンド・カラーダイヤモンド/K18/デザイン 山崎真珠 本商品はデザインをよに載いだけではありません。拡大しています。

宝石たちの新世界。

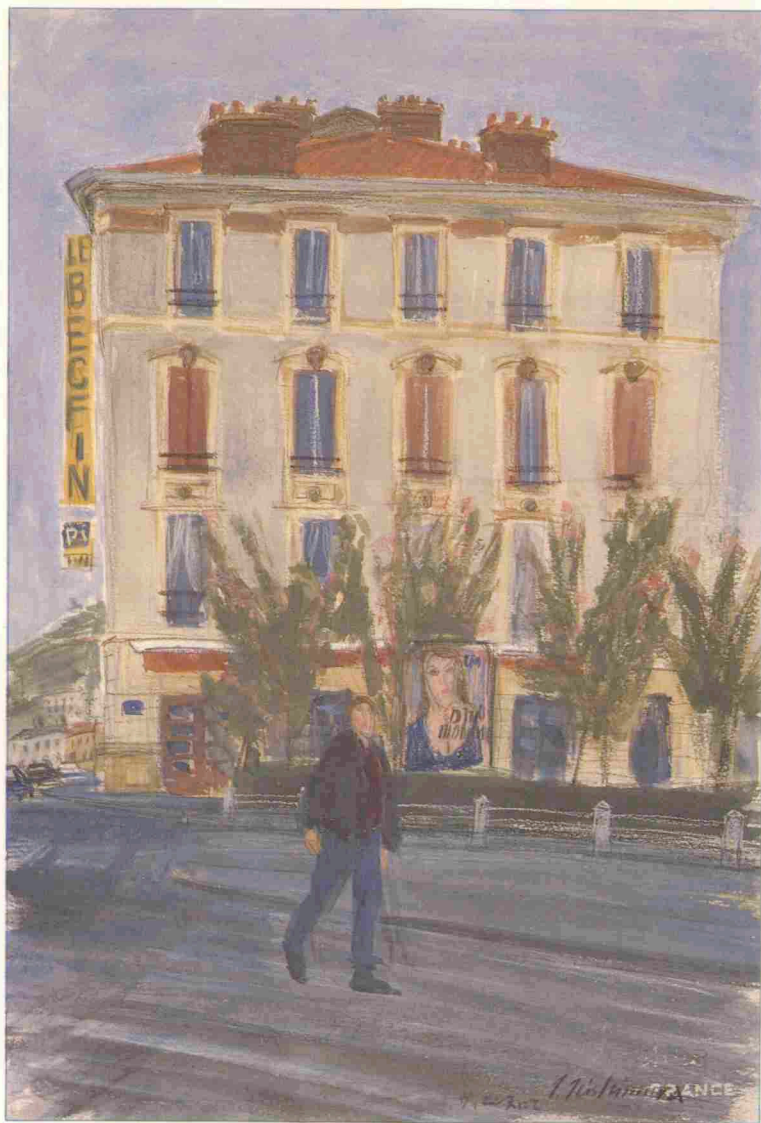
 **田崎真珠**

●この広告のお問い合わせは企画広報部
(神戸TEL.078-302-3321、東京TEL.03-580-1688)まで。

■いろいろな特典のあるプラスワンカードの会員募集中です。

Second Cover ● ヨーロッパの街角から (13)

ヴィエンヌにて (1988年) 絵／西村 功

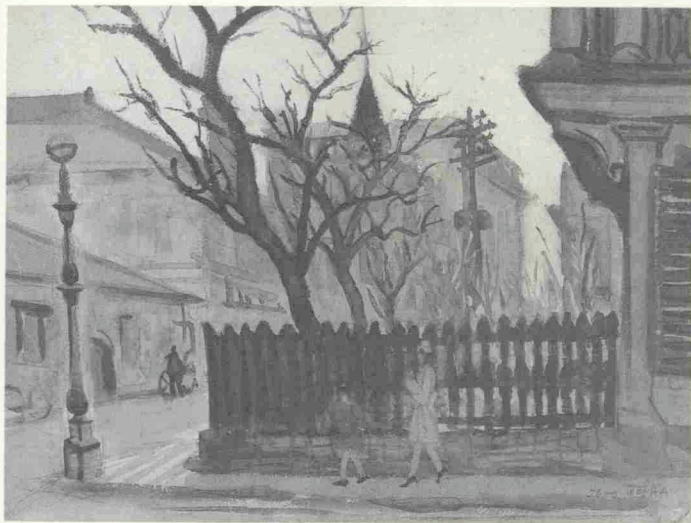


公 開 異 人 館

ギャラリー

White House

旧アメリカ領事館官舎 神戸市指定伝統的建造物



別車博覧

「旧神戸居留地」 1940年(新收藏品)

神戸開港当初に建てられた浪花町5番館で、
現在も商社（ノザワ本社）として使用されて
いる唯一の建物です。



●常設展●

神戸ゆかりの洋画家たち

金山平蔵、小磯良平、平重義、新井完、田村孝之介、古屋新、小出卓二、関口俊吾、川西英、別車博覧、鶴居玲、中西勝、西村功ら神戸ゆかりの洋画家たちの作品を展示。(作品は順次入れ替えをします)

●開館記念展●

異人館 小松益喜の世界

'89/3/21まで

展示室観覧料 ● 一般…300円

● 高校生以下…100円

(邸内は無料公開)

開館時間 ● 3月⇒11月/AM10:00～PM6:00

● 12月⇒2月/AM10:00～PM5:00

● 第4水曜日休館(祝日の場合、翌日)

● 年内は12月27日まで

新年は1月1日より

Café (併設喫茶室)

はなみすき

米大統領府使用メーカーの
カップ&ソーサーでサービス。

ポスターズプラス

アバンテ

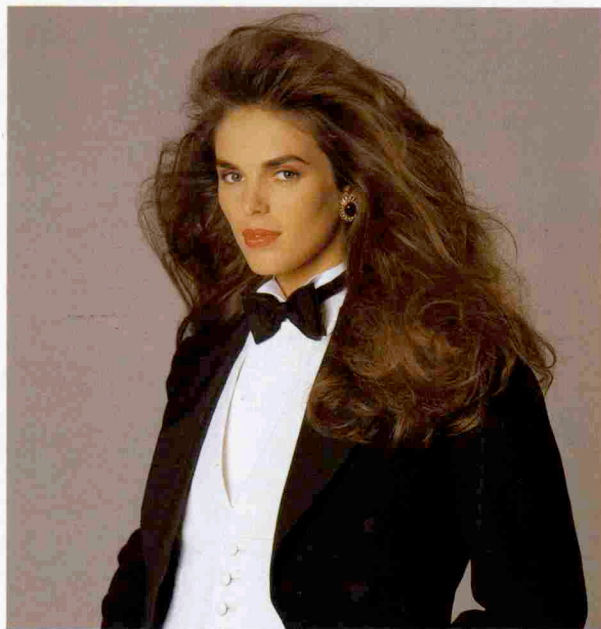
神戸初の本格的アートボス
ター専門店。

神戸市中央区北野町2丁目9-6 (ラインの館東隣) ☎078-251-0581

運営/神戸地下街株式会社・財神戸市民文化振興財団

for 110th Anniversary
O. SHIBATA & CO., LTD.
SINCE 1883

“THE CREATION OF BEST QUALITY”



「柴田音吉洋服店」は、明治16年にミナト神戸のハイカラな文明開化の中で初代柴田音吉が、手づくりの風格ある日本最初の紳士服オーダーメイド専門店として元町通りに誕生。二代目音吉は英国紳士服地の最高峰ロンドンのドーメル社と総代理店契約して大ヒット。そのドーメルの150年の“愛の創造”の歴史を、三代目高明が「柴田グループ」としてグローバルに育んできました。今、1992年の創業110周年に向けて “THE CREATION OF BEST QUALITY” O-SHIBATAシリーズを、本物を受する人々に心こめて贈ります。

金 柴田音吉洋服店
神戸市中央区元町通3-3-3 ☎078-391-4534



新しい年の出会いに感動をのせて……

Tajima
宝飾店 タジマ

元町2丁目 TEL 331-5761 代表

●神戸っ子'89

感性が輝く

吉田

めぐみ 愛

（神戸ファッション専門学校生徒）カメラ・池田年夫

今しかできないことを精いっぱいやりたい。そう彼女はつぶやく。吉田愛さん20才——一見すれば何ら変わりのないアパレルデザインを専攻する学生さんだ。そんな彼女が途方もないことをやってのけた。

コウベ・ファッションデザイン・コンテスト'88。今回で15回目を数える新人デザイナーの登龍門。そのコンテストで大賞を射止めたのが彼女だ。

「わたしは本当にこんなたいへんな賞をもらっていいのかなあ」というのが素直な感想。作品は黒のファーマルドレス。ベルベットのタイトドレスをベースに、フレアーたっぷりのレースのスカート、胸元に大きく広がる花びらのモチーフ、幅広いベルトを配し、女らしい気品とやさしさを表現した。「誰よりも輝く女性を演出できれば」をコンセプトに、そのあどけない温和な表情からは想像できないほど洗練された感性あふれる作品となった。「以外」といっては失礼だが、人間の可能性、創造力というものがいかにすばらしいものであるのかがよくわかる。「今回はつらかったけどいい勉強になった」と、彼女。将来は、やはりデザイン関係の仕事がしたいとか。ひとつの感性が、今、輝く。

〈神戸ファッション専門学校にて〉



②ハーブサウナ

今年一年フル回転

松田茂樹

〈'89社団法人神戸青年会議所理事長
丸与産業(株)専務取締役〉

カメラ・河野文雄

大河の流れを感じよ！心豊かに、活力と調和を求めて、全力でブレイク・スルー！まるで青春映画のタイトルのようなだが、これが'89年度神戸J.Cの基本方針。「今年はサマーフォーラムにしても、文化面をもっと押し出したい」と思います。今まで経済的側面ばかりが強調されていましたから」。松田茂樹、(社)神戸青年会議所(神戸J.C)新理事長はそう説明する。

昭和25年生まれ。関西学院大学卒業後、父親の経営する丸与産業株式会社に入社。現在は同社専務取締役。神戸J.Cへは昭和56年に入会。同60年に常務理事、そして昨年は副理事長を務める。

松田さんが中心となる今年の神戸J.Cの主な活動は、5月に神戸まつり、7月にサマーフォーラム、9月にフェスピック、そして11月にWFF、と大きな行事が続く。「たいへんおいそがしそうですが…」と伺うと「そうなんです。自分の本業の方はあきらめました。ほったらかしなんです」と苦笑い。

近い将来、ぜひ「世界会議」を神戸に誘致したいということ、今年の神戸まつりではパレードにもメンバーが家族を連れて参加し、それをアピールしていくそう。現在三木市在住、毎朝6時30分に自宅を出る。燃える男の朝は早い。

〈ポートピアホテルにて〉





ある集い □ 社団法人市民同友会

創立40周年 記念カーニバル

君本 昌久（市民同友会理事長・詩人）

戦後の焼け跡・ヤミ市の時代―昭和二十三年十二月十三日、市民同友会は市民社会の「市民」を合言葉にして、いち早く、神戸の新興地で文化の灯をかがけて四十年に辿りついた。

三十年代から四十年代にかけて会は活況を極めた。文芸ジャンルのグループはむろんのこと、国際事情をきく会、教育問題懇話会、若い人の集い、60年安保の声なき声市民の会まで、八十に及ぶネットワークが広がった。

兵庫県知事阪本勝、神戸新聞主筆畑専一郎、神戸大教授小島輝正など多士済々の人びと、会員は延べ千五百人、三十四年には県文化賞を受賞した。そして、数々のグループと個人が巣立った中で、神戸史学会の「歴史と神戸」、神戸空襲を記録する会、文学塾「市民の学校」の活動は、神戸の戦後史と文化にかけがえない記録を残した。

とはいえ、ここまで生きた道程の中で会は老いを迎え、「続ブラス五年史」の巻頭文は「四十年へ、夢のかけ橋」のビリオドを打ちそのすべては市民の学校へ希望を託し、六十三年十二月三日、四十周年記念カーニバルを中央区北野町の六甲荘で花火をあげた。

連絡先

神戸市中央区小野楠通五丁目一ノ七

北村ビル二F

TEL〇七八 二二一 三二五

社団法人市民同友会

（写真は四十周年記念カーニバルのメンバー、中央の君本昌久を囲んで）



ある集い□神戸室内合奏団

根づいた幅広い演奏を

前進(神戸市民文化振興財団)

海上文化都市ポートアイランド

が誕生したのは、昭和五十六年。

この記念すべき年に産声をあげた

のが神戸室内合奏団です。音楽監

督に岩淵龍太郎先生(京都芸大音

楽部学部長・教授)を迎え、演奏

に磨きをかけ水準を高めています。

来今日まで、二〇〇近い公演活

動を展開していますが、本年の四

月より、より一層の多様・多角的

な演奏活動を展開すべく、常任指

揮者を設け、初代の常任指揮者に

渡邊康雄先生(桐朋音大講師)が

就任しました。

通常の演奏は十四~五人の編成

で、きわめて小回りのきく楽団で

す。弦楽器主体の集団ですが、時

には管楽器を加え、モーツァルト

の交響曲を演奏しています。従っ

て、レパートリーも広く、バロッ

ク音楽から現代音楽まで持ってい

ます。

神戸での自主公演は、神戸文化

ホールをはじめ、市立博物館、教

会などで室内楽の楽しさ、美しさ

を披露しています。海外での活動

は、アメリカ、韓国、ヨーロッパ

公演があり、国際文化交流にも貢

献しています。神戸を越えて全国

的に、世界に絶えず目を向けてい

く理念のもとに歩んでいきたいと

願っています。

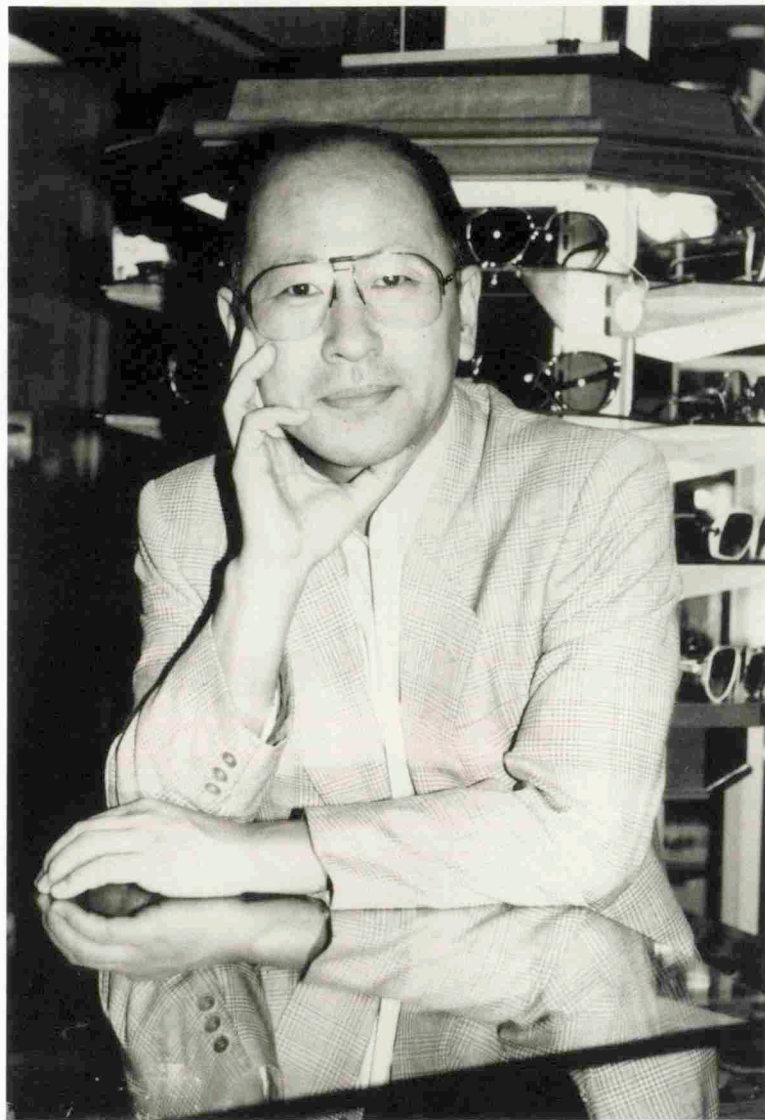
連絡先

神戸市中央区三宮町1の9の1

センタープラザ東館8F

(332) 3320

(音楽監督・岩淵龍太郎先生を囲んで)



Beautiful
eye

わたしとメガネ



パリっ子に自慢

鈴木一郎

<ギタリスト>

素晴らしいメガネを付けて
有難う。あなたの姿が
人に人に見てもらって。

毎日の想い出

鈴木一郎
(Chisō Suzuki)
88 08 8

服部メガネ

神戸・大丸前

☎(078)331-1123



“太平洋の白鳥”日本丸と海王丸

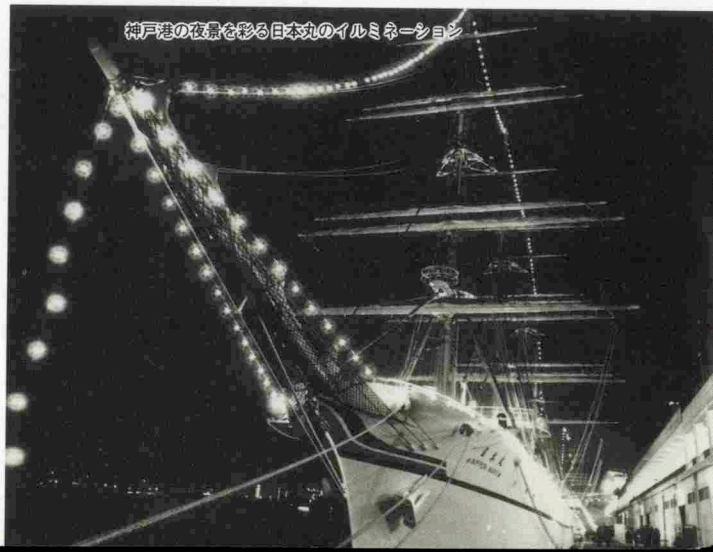
太平洋の白鳥姉妹 ラストランデブー

運輸省航海訓練所の練習帆船「海王丸」（2,245トン）と「日本丸」（2,570トン）が昨年12月1日、3日の両日、神戸港・ポートターミナルにそれぞれ入港した。「日本丸」・「海王丸」が肩を並べるのは一昨年12月以来1年ぶりであった。

「太平洋の白鳥」として人気の高い両帆船、12月17日までの15日間、イルミネーションを点灯するなど、多くのファンを楽しませた。「海王丸」が今秋に引退のため、神戸港でのランデブーはこれで最後となった。

● コウベスナップ

神戸港の夜景を彩る日本丸のイルミネーション



新しきクリエーター

美の小箱 杉浦美沙緒

文・乾 由明 〈美術評論家〉

杉浦美沙緒さんの画歴はながく、一九六〇年代の後半から作家活動をはじめているから新人とはいいたいかもしれない。しかし、その仕事が真に独創の名に値する清新な作風を確立したのは、八〇年代に入ってからである。私も数年前からこの作家の作品に注目するようになったが、以後の彼女の仕事ぶりは、眼を見はるほどめざましかった。

杉浦さんの作品で最初に衝撃をうけたのは、鮮麗な赤を基調にしたタブローである。大きな画面をいくつかの長方形に分割し、その小区画の中を鮮やかな原色で人間の手足や割れ目のある円などのイメージで、いっぱい埋めつくしたものである。そのなまなましく刺激的な感覚は、芝居絵や花札や風絵など日本の伝統的な大衆芸術の美感にとうじるところがある。大阪に生まれた杉浦さんは、幼い頃から上方歌舞伎や文楽によく親しんだということだが、そういえばここには大阪の芸能に見られる一種独特の「えげつなさ」が感じられる。それは大阪島之内に生まれた小出檐重が、「心を陶醉させる腐蝕的な美しさ」とよんだ俗悪で、それゆえ魅力的な上方の濃密な美意識である。

八五年頃から杉浦さんは、タブローのほかを発砲スチロールの球体や円筒に麻布を貼り、その上に同じようなイメージをびっしりと描き込んだ立体作品を発表し、さらに近年はタブローと立体を組み合わせたインスタレーションを手がけている。八八年の「アート・ナウ」展（兵庫県立近代美術館）の出品作は、その代表的な例であり、作品が立体や空間としての拡がりをもってきただけ、迫力ある美感はさらに増幅されている。

しかし杉浦さんの最近の仕事を、たんに日本の伝統美や上方の美感の復活としてのみとらえることはできないだろう。この作家は、八〇年代の美術の状況の中で、新しい豊饒なイメージを追求したひとつの結果として、このような個性的な世界を創り出したのである。私が杉浦さんの仕事に惹かれるのも、大阪的な美感などではなく、そこに充満している、まことに今日の造形の豊かさのためにほかならない。



状況的環境への飛翔

杉浦 美佐緒



- 1942年 大阪生まれ
- 1965年 京都市立美術大学洋画科卒
- 1973年 ベルギー、イタリア、フランス、スペインを廻る。
- 1978年 ネパール、北インドを廻る。
- 1984年 北京、西安、鄭州、洛陽、開封、上海を廻る。
第10回東京展、東京展賞（東京都美術館）
- 1985年 第3回吉原治郎賞美術コンクール展、具体記念賞。（大阪府立現代美術センター）
- 1986年 第16回日本現代美術展（東京都美術館・京都市美術館）
- 1988年 アートナウ'88（兵庫県立近代美術館）